

ふるさと創世 (住み良い町にくらしの工夫)

実践項目

校区公民館

- 一、あいさつ運動
- 一、明るい地域づくり
- 一、子供達に夢と誇りを



第128号
平成21年2月25日
田迎校区公民館
館長 東 旭
編集委員
上田 昭蔵 吉住 久江
小林省三郎 西田 孝幸
☎378-5878
編集責任 吉野元生



平成二十一年一月七日(水)午後六時より、田迎公民館に於いて、田迎校区新年会が行われた。出席者は校区の諸団体の役員及び自治会役員とその関係者で校区住民のため奉仕している方々で、九十五名である。会は公民館主事の吉野氏の進行によって開始された。はじめに東校区公民館長の開会の挨拶があり、主催者として西田自治連合会長の挨拶が行われた。引きつづき、江藤市議及高島市議の来賓挨拶が行われ、前田まちづくり委員長長の乾杯の音頭で新年会は開会された。そのあと、各町内毎に参加された方々の自己紹介等が行われ、宴会は楽しく続けられた。

校区新年会 大盛況の中、開催される

会に参加された方々は、常に町内のために活動されているため、話題は、まちづくりの事に集中していた。特に、田迎校区の分離問題等が話題の中心であった。新年会は、二時間半にわたって続けられ、参加者同士の親睦の和は高められた様であった。最後に、今後の参加者全員の健康と活躍を祈って、米村一町内自治会長による、しめの挨拶で会は閉じられた。

コミセンで 自治協トーク田迎行われる

平成二十一年一月二十三日(金)午後七時より、コミセンの会議室に於いて、校区自治協トーク田迎が行われた。この会は、幸山市長を囲んでの校区自治協との話し合いである。参加者は、自治協議会会員約七十名で会場は一杯になった。会には市職員の司会により開始された。市側代表として、幸山市長、中井幸田市民センター所長、月脚公民館長として参加された。はじめ幸山市長より、まちづくりについて、四十分程、話があった。その内容は、市全体のまちづくりの概要と市の現状についてであった。



現在、熊本市の人口は減少傾向もあり、財政状況は厳しくなっている。それに新幹線の問題と政令指定都市の実現に努力している。また、まちづくり戦略計画で行政改革推進計画を中心に話し合いを続けているし、政令指定都市実現については、熊本市の人口は現在六十八万人で、附近町村と間に合併法定協議会を設置して、合併にむけて努力中である。政令都市になった場合のメリットは、区役所の設置ができて市民へより身近な所で色々のサービスができるようになる。また、県から市に権限が移譲されて、県と同じ状態になり、市が国へ直接に話し合う事ができる等が話された。その後、住民との質疑がだされての応答があつて会は閉じられた。



田迎小分離校についての 説明会行われる

平成二十年十一月下旬に田迎小学校分離新設校についての説明会が市教育委員会によって行われた。十一月二十八日に行われた、三町内での説明会について報告をする。市教育委員会から山口主席審議員と甲斐学務課長他に市の職員八名が来席された説明会が行われた。新設校予定地は熊本市馬渡二丁目七〇番で面積約二万二千平方メートルで建設までは五年程はかかる予定である。校区分割は各町内で説明をして住民志向を尊重して決定するとの事である。現在の田迎校を分離しない場合は、平成二十六年には学級数三十三、児童数千二百二十一名になるとの事である。分離した場合は、平成二十六年、田迎校は学級数十七、児童数五百三十三名で、分離校は、学級数二十一、児童数六百九十一名と推計しているとの事である。校区分割は、出仲間二丁目、四丁目から九丁目と一丁目と三丁目の一部が田迎小へ。出仲間一丁目と三丁目の一部が新設校へ。また、田迎一丁目から六丁目及馬渡一丁目と二丁目が新設校になっている。今後は、この分割案で住民との話し合いを続けていくとの事である。住民一同はよりよい校区分割ができる様に協力したいものである。

にぎわった れいすい祭

平成二十年十一月七日(日)午前十一時から、田迎小学校に於いて田迎小PTA主催による「れいすい祭」が行われた。はじめに、午前十一時から体育館に於いて、田迎小音楽部員によつてのオープニングコンサートが行われた。その後、十一時四十分から、運動場でバザーが開かれた。バザーには、ラーメン、駄菓子、おにぎりの販売がされ、ゲーム等も行われ、多くの児童、保護者が参加して大盛況であった。特に、ラーメン、焼そばなどは行列が出来る程であった。参加した人達はそれぞれ満足表情であった。

